

# 第1回只見線利活用プロジェクトチーム会議

## 次 第

日 時：平成29年1月30日（月）10時00時

場 所：会津若松合同庁舎 3階 地域連携室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 只見線利活用プロジェクトチームの目的・進め方等について

(2) 意見交換

(3) その他

4 閉 会

## 第1回只見線利活用プロジェクトチーム会議 出席者名簿

### ( 構 成 員 )

所 属	役 職	氏 名	備考
会津若松市	地域づくり課長	井島 慎一	
	地域づくり課主任主事	岡部 真志	随行
会津美里町	まちづくり政策課長	歌川 敏	
会津坂下町	政策財務課長	荒井 敏之	
柳 津 町	地域振興課長	菊地 淳一	
三 島 町	地域政策課長	橋本 公和	
金 山 町	復興政策課長	小野田 博芳	
只 見 町	総合政策副課長	目黒 康弘	代理
只見川電源流域振興協議会	事務局長	小柴 謙	
只見町観光まちづくり協会	事務局長	酒井 治子	
公立大学法人会津大学短期大学部 産業情報学科	准教授	高橋 延昌	
特定非営利活動法人素材広場	理事長	横田 純子	
公益財団法人ふくしま自治研修センター	総括支援センター兼教授	吉岡 正彦	
福 島 県 生 活 環 境 部	政策監	金子 隆司	

### (オブザーバー)

所 属	役 職	氏 名	備考
国土交通省東北運輸局 交通政策部	交通企画課長	吉田 瑤子	
	鉄道部	計画課専門官	佐藤 彰

### (県関係・事務局)

所 属	役 職	氏 名	備考
福 島 県 生 活 環 境 部	生活交通課長	根本 達弥	
	生活環境総務課企画主幹	関根 昌典	
	生活環境総務課主事	安部 英亮	
	生活交通課主事	添田 拓郎	
福島県会津地方振興局 企画商工部	地域づくり・商工労政課主任主査	渡邊 憲夫	
	県民環境部	県民環境課主事	古賀 薫
福島県南会津地方振興局 企画商工部	地域づくり・商工労政課主任主査	長谷川 進	
	県民環境部	県民環境課主事	芳見 栄樹



# 第1回只見線利活用プロジェクトチーム会議

日時：平成29年1月30日（月）

会場：会津若松合同庁舎

福島県生活環境部

# 只見線の復旧方針

平成28年12月26日(月)

第6回只見線復興推進会議検討会

- ▶ 全会一致で上下分離方式による  
鉄道復旧方針を取りまとめ

**全線開通を見据え、地域が一体となって  
JR只見線の利活用に取り組む**

# 只見線の復旧方針

(平成28年12月26日開催 第6回只見線復興推進会議検討会)

## 只見線の復旧方針について(案)

平成23年7月、東日本大震災と原発事故に追い打ちをかけるように豪雨災害が発生した。家も道路も、そして只見線も甚大な被害を受け、我々はその大きな喪失感をいまも抱き続けている。

特に奥会津地域については、人口減少・高齢化の進行により地域活力が低下し、今まさに有効な手立てを講じなければ、地域の衰退が加速してしまう重要な転換点を迎えている。

# 只見線の復旧方針

只見線は、地域の将来像を描き、地方創生を成し遂げるための起爆剤として必要不可欠な存在であり、全線開通により日本一のローカル線として以前の姿を取り戻し、生活に、観光に、教育旅行に、多くの方々に利用される新たな只見線をつくりあげていかななくてはならない。

そのため、県と沿線自治体が一丸となって様々な課題を克服し、国、JR東日本の協力を得ながら、上下分離方式により只見線を鉄道で復旧させることとする。

併せて、学識経験者や地域づくり実践者等の参画を得て只見線活性化プロジェクトチームを立ち上げ、実効性の高い計画を策定し、地域と一体となって全線開通を見据えたJR只見線の利活用に取り組み、会津地域の振興を図っていく。

# これまでの主な取組

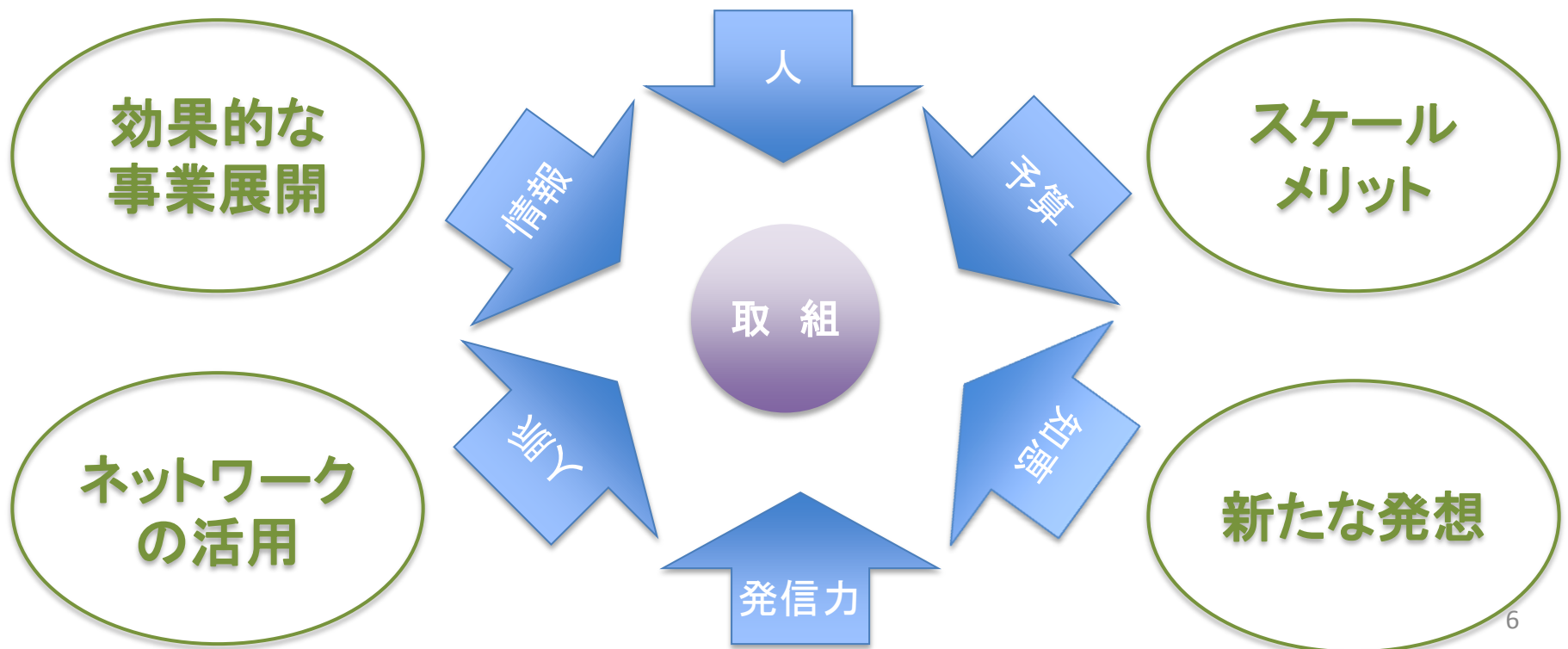
- 1 只見線復旧支援体験ツアー(会津若松市)
- 2 職員共助会による助成事業(会津美里町)
- 3 駅長おすすめの小さな旅(会津坂下町)
- 4 誘客おもてなし事業(柳津町)
- 5 JR只見線利用促進二次交通運行事業(三島町)
- 6 JR只見線復旧応援事業(金山町)
- 7 只見線縁結びLIVE(只見町)
- 8 海外旅行会社とのタイアップ(只見川電源流域振興協議会)

▶ **各自治体がそれぞれ積極的に利活用策に取り組む**



# これからの取組

自治体・企業・個人など、各自が有する資源を結集し、  
地域が一体となって、より効果的な取組を実行する



# これからの取組

沿線自治体、有識者等による  
只見線利活用プロジェクトチームを設立し、  
『只見線利活用計画』を取りまとめる



今後は、只見線利活用計画に基づき  
明確なコンセプトのもと、各自が積極的  
かつ効果的に事業を展開

# プロジェクトチームの目的

多角的な調査・分析、斬新なアイデア等により、改めて地域の魅力と可能性を捉え、只見線を活用した地域活性化を図るための**事業実施計画**を策定

▶ **コンセプト**を明確にしたうえで、目的、ターゲット、各自の役割等を明確化(6W2H)

W h y

なぜ(事業の目的・ニーズ)

W h a t

何を(事業の内容)

W h o

誰が(事業の実施者・役割)

W h o m

誰に(ターゲット・目標数)

W h e n

いつ(事業の実施時期・期限)

W h e r e

どこで(事業の実施場所)

H o w

どのように(手段・方法)

H o w  
m u c h

いくらで(数量・金額)

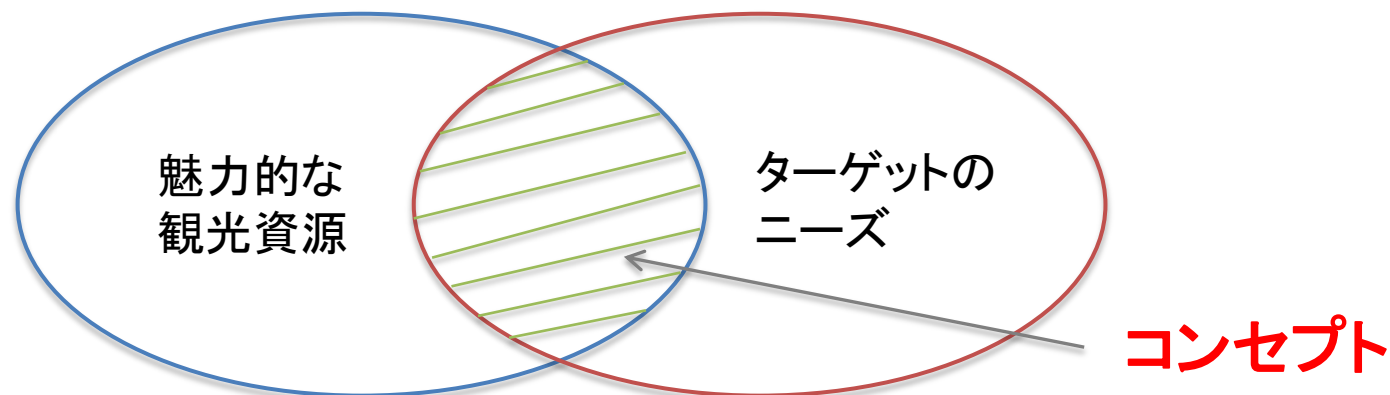
# 検討の視点(コンセプト)

- ・観光資源（食・自然・体験・文化・歴史）

▶ 魅力的な観光資源(強み)の洗い出し

- ・ターゲットニーズ（統計調査、観光動向分析）

▶ 狙うべきターゲット



# 検討の視点(マーケティング)

## コンセプトを実現するためのマーケティング

- ・市場調査、ニーズ把握
- ・観光客受入基盤整備
- ・情報発信(プロモーション)
- ・集客、交流プラン企画
- ・イベント、特産品開発
- ・人材、組織育成



- ・乗る(ツアー、住民)
- ・つなぐ(二次交通、バス、特区)
- ・きれいにする(駅、線路周辺の清掃)
- ・観る(撮り鉄、樹木の管理)
- ・仲間を増やす(応援団、寄附)
- ・日本一づくり(食品・手作り)

# 取組の効果検証

これらの議論を積み重ねたうえで、**数値目標を設定**し、只見線利活用計画を策定する



実行後は継続的な効果・検証により、  
継続的な改善を行う**(PDCAサイクル)**



# 地域の将来を担う若者ととともにつくる

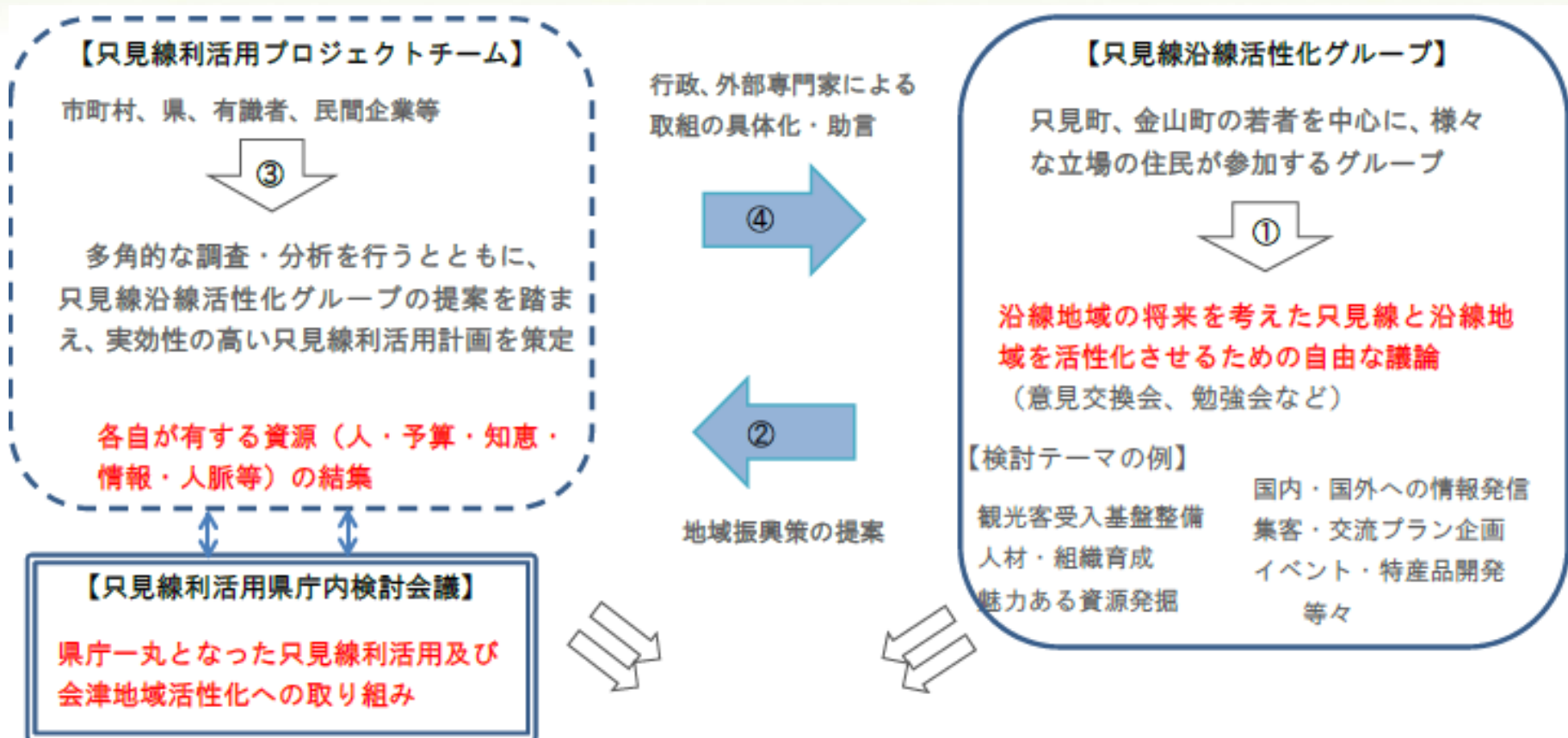
しかし、これらを実現するには、  
地域住民の協力が不可欠であり、  
とくに、将来を担う若い人の参画が必要



より、実効性の高い計画を目指し、

只見町・金山町の若者を中心に、  
『只見線沿線活性化グループ』を設立

# 只見線沿線活性化グループ



数値目標を掲げて策定する計画に基づき、

総力を挙げて地域振興に取り組む

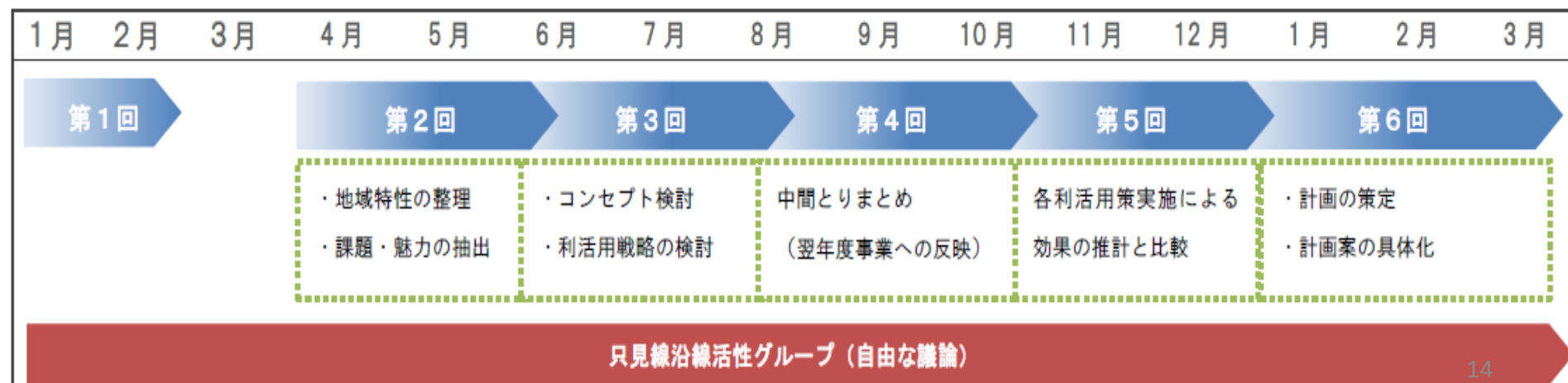


# スケジュール案

只見線利活用プロジェクトチーム、只見線沿線活性化グループを両輪に、来年度から本格的に検討を開始

8～9月：中間とりまとめ 来年度中：計画策定

(策定までのスケジュール案)



# 最後に(事務局案)

## コンセプト: 奥会津学習列車

列車内に教室を再現し、奥会津の本物の景色、教材を活用しながら、環境教育や歴史教育、体験学習等を提供してはどうか

### ターゲット

首都圏の小学校5～6年生(学習旅行誘致)

### 魅力的な観光資源

只見町ユネスコエコパーク、只見川流域の水力発電所、奥会津の暮らし・原風景、会津若松の歴史など

# 最後に(事務局案)

## 特 徴

- 1 会津若松～只見線駅間の約2時間30分を活用し、日本初の学習列車を提供(乗ることの目的化・高い宣伝効果)
- 2 学校を対象とすることで、通常のイベント列車と比べ、年間を通して安定的な利用が見込まれる
- 3 震災以降、教育旅行が低迷しつつある会津地域にとって、誘客の起爆剤になる可能性がある(相乗効果)
- 4 教育の観点から行政の支援が継続的に受けられる可能性が高い(県内小学校に対するバス代の補助など)